



アクアティック・パーク歴史地区には、散歩道、ガーデン、ケーブルカー・ターンアラウンド、1939年竣工の「ストリームライン・モダン」スタイルのバスハウス・ビルがある。

サンフランシスコ国立海洋歴史パークでは、サンフランシスコの航海に関連する過去を目で見て、耳で聞いて、肌で感じることができます。そして海で生活していた人たちがどのように暮らしていたかを学ぶことができます。南米のケーブホーンを17回も回った横帆艦装船、バルクルーサ号の木造の甲板から、何か月もの航海で船員が待避した窮屈な船室に身がかがめて入ってみてください。沿岸スクナー船、C.A.セイヤー号のカーブした船倉を歩いてみると、洗いたての魚が塩と階層になって天井まで積み上げられています。

ハイド・ストリート・ピアに沿って、パークのスタッフとボランティアが、

ロープの修理、金具のニス塗装、原動力である蒸気エンジンの手入れを行っています。パークレンジャーはさまざまなプログラムを実施しており、バルクルーサ号のマストを支えるリギングの説明をするため高い場所まで登っていくことさえあります。また、「エイジ・オブ・セイル」環境リビング・プログラムでは、歴史的船舶に児童を宿泊させています。小型ボートの作業場では、職人らが蒸気で柔らかくした厚板を成形したり曲げたりして、歴史的船舶の修理やレプリカ制作に携わります。

ビジターセンターでは、展示や体験活動を通してゴールドラッシュ、難破船、航海中の通信などについて学



ビジターセンターの展示や物品は西海岸の船乗りについて物語る。

ぶことができます。インタラクティブな展示ではニューヨークとサンフランシスコ間の航路が紹介されています。また、ファラロン諸島の灯台に設置された巨大なレンズからは西海岸の航海史を知ることができます。「ストリームライン・モダン」スタイルで設計されたアクアティックパーク・バスハウスには、1930年代の連邦美術プロジェクトの壁画があります。正面の石の彫刻はアフリカ系米国人アーティスト、サージェント・ジョンソンによって制作されました。

海洋の歴史をさらに詳しく知りたい方は、ランドマーク・ビルディングEを訪れてみてください。物品、書類、船舶の設計図、写真、映像、書籍、定期刊行物、口述による歴史などを視聴できます。



ハイド・ストリート・ピアに停泊した歴史的船舶。左から反時計回りにコリーカ号、バルクルーサ号、エッフルトン・ホール号、C.A.セイヤー号。

サンフランシスコと海  
米国先住民がサンフランシスコ湾でカヌーを使った生活を送っているのと同じ頃、ヨーロッパの探検家たちは海岸線の地図を作成していました。1776年、スペイン人が現在のサンフランシスコにあたる場所に定住しました。ほどなくして、アザラシやラッコの毛皮を求めて多くの船がやって来るようになりました。1820年代には、捕鯨者が来たほか、ボストンの商船がカリフォルニア・カウハウドの取引を始めました。

1849年、シエラネバダのふもとで金が見つかったため、世界中から人々が押し寄せました。その年、750隻の船舶がサンフランシスコに到着しました。富を求める人々の中にはアメリカ製のしゃれたクリッパー船で

来る人もいましたが、ほとんどの人たちは、何とか水上に浮かぶという程度のもので航海しました。浅瀬まで来て、自らの船舶を置き捨てていくこともよくありました(そのような船の残骸は現在のサンフランシスコ金融街の地下に埋まったままとなっています)。「船と棧橋と潮汐の街である」とは、チリのジャーナリスト、ベンジャミン・ピクーニャが1852年に書いた言葉です。「浜から離れて停泊した手すり付きの大型船は、住居、店舗、レストランの役目をなした」と語っています。

ゴールドラッシュは、世界中から商人、労働者、職人をもたらしました。1870年代までには、バルクルーサ号のようなヨーロッパの大型帆船



ハイド・ストリート・ピアで、バルクルーサ号、その他の船舶に乗船して、船乗りの生活を体験。

が、急成長するカリフォルニアの穀物取引に引き付けられてやって来ました。また、C.A.セイヤー号のようなスクナーの船団が、ワシントン州のピュージェット湾からダグラスファー(アメリカ松)を積んで到着しました。また、アルマ号のように底が平らなスカウ・スクナー船は、農耕具のすき、種子、ミシン、布地、石炭、石油などを積み、カリフォルニアのセントラル・バレーまで川を上っていきました。帰路では、これらの船は、長距離輸送に向けた麻袋に詰められた硬く白い小麦を運びました。サンフランシスコの波止場では、このような小麦の入った麻袋

が、ヨーロッパに航行する船に手作業で積み込まれました。穀物取引が衰え、鉄道が製材所まで到達するようになると、船の多くは置き捨てられたり、解体されました。幸運な船は改装されて、他の目的に使用されました。バルクルーサ号とC.A.セイヤー号は1800年末から1900年初めにアラスカの漁場に移されました。1914年にパナマ運河が開通すると、アメリカの両海岸の間を行き来する蒸気船の交通量が爆発的に増加しました。また、第一次大戦と第二次大戦では、軍事の需要を満たすため西海岸に造船所が設立されました。



歴史的エンジン・プレート。センチナル号の修復された船首像。

一時期、サンフランシスコの波止場地区では、すぐれた帆船、沿岸旅客船、軍用船、地元だけで利用される仕事用の船など、まばゆいばかりの船舶の数々がひしめき合いました。これらの船は次々と時代遅れになっていきましたが、それでもなお、その美しさと、それが物語る歴史は大切にされています。1988年、米議会はサンフランシスコ国立海洋歴史パークを開設し、アメリカの海洋の過去が保護・保存されることになりました。



ハイド・ストリート・ピアに停泊した全装備の帆船、バルクルーサ号。ミュニシパル・ピア(市の埠頭)から見たアクアティック・パーク・ラグーン

PHOTOGRAPHS NPS / TIM CAMPBELL AND STEVE DANFORD